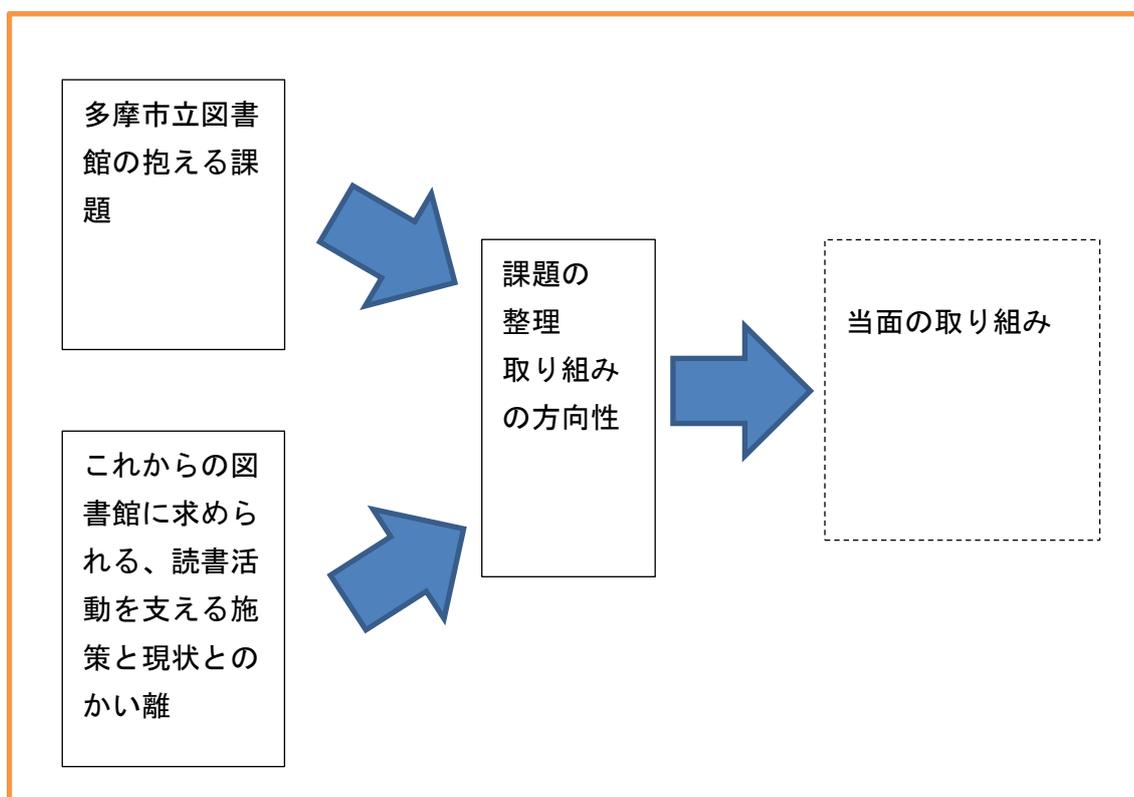


II 課題

多摩市立図書館は、「I 現状」でみてきたように、貸出サービスを中心に活発に利用されてきました。しかし、様々な課題をかかえているのも事実です。

運営面では唐木田図書館の窓口業務の委託に関連して、選書や窓口業務などの基幹業務を直営で行うべきかどうか就问われました。また、平成24年9月に行われた決算審査の中では、様々な課題が指摘されました。さらに、「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」では、暫定活用中の本館の問題や、地域館の集約ができるかどうか就问われています。サービス面を見ると、これまで貸出中心で日常に追われ、これからの図書館に求められるような、市民の読書活動や調べ物を支える様々なサービスに手が回っていない状況もあります。

ここでは、多摩市固有の課題や多摩市の図書館サービスに不足しているものなどを見ながら課題の整理をし、その中の主要な課題について考察を加えた上で、当面の取り組みへとつないでいきます。



第1 多摩市立図書館の抱える課題

1 急速に進む高齢化

いま、団塊の世代が後期高齢者の年齢に達するいわゆる「2025年問題」が言われています。多摩市は、昭和40年代以降の多摩ニュータウン開発に伴い、人口が大幅に増加しました。短期間で多くの人口が流入した影響で、年代構成が特定の世代に偏っており、国を上回る水準で進行することが予測されています。

このことは、年金や医療、介護といった社会保障費の急激な増加にもつながっており、安定的な行財政運営における大きな課題となっています。

2 暫定活用も含めた施設の老朽化

多摩ニュータウンへの初期入居から40年以上経過した現在、急激な人口の増加に対して整備してきた公共施設の多くが老朽化し、今後一斉に更新時期を迎えるため財政負担は今以上に重くなり、必要な維持管理と更新ができなくなる恐れが出てきました。そこで、平成25年11月に「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」が策定されました。図書館については、本館が平成20年から概ね10年間の暫定利用として整備した施設であり、サービスの充実・向上を図る上で制約が多いため、利便性の高い所へ移転、再整備を検討することとしました。そして本館の再整備を行うことと、東寺方、豊ヶ丘、聖ヶ丘、唐木田図書館を廃止するという方針を出しました。

その後、地域館の存続を求める議会への陳情が出され、豊ヶ丘複合館の存続を求める陳情が採択され、東寺方図書館の存続を求める陳情や唐木田図書館の存続を求める陳情、唐木田図書館廃止計画の撤回に関する陳情が趣旨採択されました。また、地域館の存続を求める市長への要望書など、市民から多くの声が寄せられました。

公共施設の見直し方針と行動プログラムについては、政策情報誌の発行による市民との課題の共有、アンケートの実施、公共施設に関するワークショップの実施などが行われており、市民と行政が一緒に考えながら、平成28年度以降も、引き続き更新していく予定です。

3 資料費の確保と人件費

図書館費は約637,092千円（平成26年度）で内訳は資料費が8%、運営経費が18%、職員に係る経費が74%です。また、唐木田図書館で窓口業務を委託するための費用約3千万円を合わせると、職員に係る経費は、79%となります。資料費は50,492千円で、多摩地域の人口10~20万人規模の13市と比較すると5位です。現状より、資料費を増額して確保していくには、効果的、効率的な図書館の運営が必要となっています。嘱託職員による運営の拡大をさらに進めるなど、人件費の構造改革をしていく必要があります。

4 職員の先細り

市民のニーズを踏まえた図書館資料の組織化や図書館経営に従事する職員は、経験と知識が求められます。常勤職員が高齢化し定年を迎えていく中、常勤職員と嘱託職員の役割分担、職員集団としての専門性を維持・確保するための役割に応じた人材育成などのしくみづくりが必要です。

5 ICT の活用による新たな情報提供や業務効率化

電子書籍の導入、貴重な地域資料のデジタルアーカイブ化など電子媒体の利用環境は十分整備されていません。

また、図書館システムの更新やインターネットの活用により、図書館利用環境の改善や業務の効率化を図ることは、サービスの改善や職員の働き方の課題解決にも関連する重要な分野です。

6 書庫

書庫については、これまで学校跡地などに分散していたものを本館に集めることができましたが、床の荷重の問題や空調など、持続可能な環境とはいえません。

7 蔵書の適正管理

図書はの亡失は以前からの課題であり、拠点館2館には不正持出し防止装置を設置し、効果が見られます。しかし、本館では、書架の見通しの悪さもあり、亡失対策は大きな課題です。近年では、ICタグを用いて自動貸出と組み合わせるなどの取り組み例もあります。

また、水濡れは本の大敵であり、書き込みや汚損の事例もある状況です。次の利用者に気持ちよく使っていただくため、返却時に1冊1冊点検をしています。負担の大きい作業となっています。

8 図書館の運営に対する指摘

平成22年7月、施設の増加に対応した人員体制が組めない状況から唐木田図書館の窓口業務を委託せざるを得ない状況などを受け、市は教育委員会に対し、図書館の機能、運営方法等全般についての抜本的な見直しが必要との見解を示し、今後の図書館運営についての考え方を示すよう求めました。

また、多摩市議会は、平成23年度決算における事務事業評価において、現状維持による図書館行政の発展向上が考えにくいことや、施設総量見直しの視点から、全図書館で同一均質のサービスを提供する必要性についても検討を要すること、『目指すべき図書館像』を明らかにし、具体的な処方箋を描くべきこと、財源のみでなく人的資源も先細りの現実を直視し、公立図書館の質向上につながる最適サイズを考えるべきことなどの評価を行いました。

第2 国の基準等と比較した多摩市立図書館のサービス等の課題

「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」が平成24年12月に文部科学省から告示されました。これは、図書館法第7条の二の規定に基づくものです。図書館はこの基準を踏まえ、図書館サービスの実施に努めなければならないとされています。

多摩市立図書館は、開館以来40年以上運営されてきましたが、改めて国の基準と比較することで、運営上の弱みや、市民サービスの観点からの不足などが見えてくると考えます。

ここでは、この基準の「図書館サービス」の部分を中心に多摩市立図書館の現状と比較し、体系立てて多摩市立図書館のサービス等の課題を抽出します。

1 「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」の構成

この基準は、以下のように構成されています。

- 第一 総則
- 第二 公立図書館
 - 一 市町村立図書館
 - 1 管理運営
 - 2 図書館資料
 - 3 図書館サービス
 - 4 職員
 - 二 都道府県立図書館
- 第三 私立図書館

2 図書館サービスについての基準との比較

基準の項目ごとに多摩市立図書館の現状と課題を見ていきます。下線を施している部分が、特に現状として大きな課題となっているものと考えられます。

	基準	現状と課題
貸出サービス等	貸出サービスの充実、多様な資料要求に答えることとしています。	貸出や予約については、これまでも非常によく利用していただいています。
情報サービス	インターネットや商用データベースの活用なども含め、レファレンスサービスの充実に努めるものとしています。 また、利用案内やテーマ別資料案内、資料検索システムの供用等を充実することとしています。 さらに、インターネット環境の提供や他機関の紹介などにも努めることとしています。	簡単な所蔵案内などの問い合わせには答える件数が多くなっていますが、課題解決や組織的なレファレンスサービスや他の機関の紹介等については、調べ物用図書の分散などの課題があります。 小学生による図書館訪問など、子どもときから図書館の利用に親しむことを学校とも連携して取り組んでいます。テーマ別の資料案内などは、その充実が必要です。 インターネット端末は各館で提供しています。国立国会図書館のデジタル化資料送信サービス導入など、引き続きさらなる活用を検討します。
地域の課題に対応したサービス	利用者の生活や仕事、地域の課題解決に向けた支援が必要とされ、そのために就職、起業、子育て、自立支援、健康・医療、法律、地方公共団体の政策などについての資料提供をすることとしています。	行政資料室における情報提供や行政課題に関する展示、資格取得や医療情報提供のためのコーナーの設置など、一部取り組んでいますが、職員体制の整備や他機関との連携など、より積極的な取り組みが必要です。
利用者に対応したサービス	児童・青少年、高齢者、障がい者、乳幼児と保護者、外国人など、多様な利用者が図書館を利用できるよう努めることとしています。	これまで「多摩市子どもの読書活動推進計画」などにより、市民のボランティアの方のご協力もあり、赤ちゃんから絵本に親しむ環境づくりや、おはなし会、小中学校との連携などを進めてきました。 障がい者サービスについては、これまでも力を入れて取り組んでおり、宅配サービスなども行ってきています。 しかし、赤ちゃんを連れた保護者が

		<p>図書館を利用しやすい環境や、図書館の利用が低下する中学校卒業後の若年層への対応などについては、課題と認識しています。</p> <p>外国語の利用案内なども作成していますが、外国語資料などの収集は今後の課題です。</p>
多様な学習機会の提供	利用者及び住民の学習活動を支援するため、資料提供のほかにも、関係機関とも協力しながら、講座などの学習機会の提供をすることとしています。	<p>子どもの本に関連した講座や、読書のきっかけになるような催しなどを主催してきましたが、課題解決型の情報提供などからめて、より積極的な取り組みが求められています。</p>
ボランティア活動等の促進	図書館サービスの充実のため、住民の学習成果の活用のため、ボランティア活動の機会や場所を提供することとしています。	<p>おはなし会や絵本かたりかけ事業、障がい者サービスなど、これまでも多くのボランティアの方々に支えられて実施してきました。今後も、これまでの活動の充実とともに、それ以外の分野についてもサポートしていただけるよう検討する必要があります。</p>

3 図書館サービス以外でのギャップ

	基準	現状と課題
基本的運営方針及び事業計画 運営の状況に関する点検及び評価等	<p>基本的な運営の方針を策定し公表すること、またそれに基づく指標や目標を設定し、年度ごとに事業計画を策定し公表することとしています。</p> <p>また、達成状況についての自己点検、図書館協議会などによる評価、改善のための必要な措置、公表などについて記されています。</p>	<p>平成23年4月に「多摩市立図書館の基本方針・運営方針」を策定し公表しました。これは内部に検討組織を設置し、利用者にアンケートを行うとともに、図書館協議会での意見をいただきながらまとめたものです。指標や目標としては、「第五次多摩市総合計画第二期基本計画」では、年間個人貸出冊数等の目標を掲げ、「多摩市教育振興プラン」でも、毎年度目標を掲げて教育委員会において成果を評価しています。</p> <p><u>ただし、図書館としての年度ごとの事業計画については、試行の段階であり、公表や自己点検までには至っていません。</u></p>
開館日時等	<p>多様な生活時間等に配慮することとしています。</p>	<p>駅前拠点館について平日は午後7時30分までとし、逆に一部地域館については午前10時からのところを午前9時30分からとするなど、館の特性に応じた改善を図っています。さらに拠点館での開館時間の延長などの要望があります。<u>職員体制などとの兼ね合いがあるため、メリハリをつけた運用の導入などを課題としています。</u></p>
施設・設備	<p>開架、閲覧、レファレンス、展示などの基本的な設備のほか、高齢者、障がい者、乳幼児とその保護者、外国人などへの配慮や、児童・青少年の専用スペースの確保などが示されています。</p>	<p>図書館は静かであればならないと考えられていますが、グループでの学習スペースなどのニーズへの配慮も必要です。<u>乳幼児を連れた保護者や青少年が、赤ちゃんの声やグループ学習などで周りが気にならないような施設上の工夫についても、課題として認識しています。</u></p>
図書館資料の収集	<p>図書館資料の収集方針の策定と公表、十分な量の資料の計画的な整備に努めることとし</p>	<p>資料収集要綱を定め、公表しています。</p> <p>資料費については、改善の余地があ</p>

	<p>ています。</p> <p>また、地域資料や視聴覚資料など多様な資料の整備と、地域資料の電子化について努めることとしています。</p>	<p><u>ると認識しています。</u></p> <p>地域資料について、行政資料やニュータウン資料など、積極的に収集しています。<u>電子化については費用面や著作権にも配慮しながら検討する必要があります。</u></p> <p><u>電子書籍についても、図書館に来ることのできない市民へのサービスなどの観点から、検討していく必要があります。</u></p>
職員の配置等	<p>司書資格を有する職員の確保や、能力向上、人事交流などに努めることとしています。</p> <p>また、必要に応じて外部の専門的人材の協力についても述べています。</p>	<p>これからのレファレンスの充実や課題解決のサポートのできる人材を育てるため、<u>司書資格を有する職員の比率の充実や育成が課題です。</u></p> <p><u>また、施設管理など、図書館の基幹業務以外の専門的分野については、外部委託等の手法も検討が必要です。</u></p>
職員の研修	<p>職員の資質・能力の向上のため、計画的に研修を行うこと。その際には、国や都道府県主催の研修への派遣なども検討することとしています。</p>	<p>国や都の派遣研修の活用や、内部でのテーマ別の研修なども行っていますが、<u>計画性や効果の検証、職層別に修得すべき能力に応じた取り組みなど、見直しの余地があります。</u></p>

第3 とりまく状況や課題を踏まえた読書活動と多摩市立図書館の改善・向上

1 課題のまとめ

「第1 多摩市立図書館の抱える課題」と「第2 国の基準等と比較した多摩市立図書館のサービス等の課題」から主な課題を抽出し、サービス面と運営面とに分けてまとめ、今後の方向性について整理すると、以下のようになります。

【サービス面】

項番	課題項目	課題の内容	今後の方向性
1	利用者に対応したサービス	<ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃんを連れた保護者への配慮 ・中学校卒業後の層の利用が低下すること ・外国語資料の収集 	子どもの読書活動推進や障がい者サービスなどは継続しながら、乳幼児を連れた保護者への配慮や、図書館の利用が低下する世代へのサービス、外国人などへの多文化サービスを充実
2	地域の課題に対応したサービス	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題に対応したサービスへのより積極的な取り組み 	地域資料の活用、展示の充実 読書活動を振興するための事業やイベントの実施や団体の支援など
3	多様な学習機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決型情報提供などと絡めた講座や催しなど 	他機関との連携（パルテノン多摩、公民館、学校、文化財担当など）
4	図書館資料の収集	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資料等の電子化 ・電子書籍によるサービス 	地域課題解決のための資料の充実や調べもの機能の向上、コンピューターを使ったサービス拡充など
5	ICTの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用による新たな情報提供 	
6	情報サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決や組織的なレファレンスサービス ・テーマ別の資料案内など 	

【運営面】

項番	課題項目	課題の内容	今後の方向性
1	暫定活用の本館	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな本館を設置 ・レファレンス機能の強化 ・書庫の問題 ・開館時間の見直し ・グループ学習ができるような工夫 	新たな本館の再構築
2	資料費の確保と人件費	<ul style="list-style-type: none"> ・職員体制の見直しと資料費の確保 	職員構成や職層ごとの役割の見直し
3	職員の配置、研修等	<ul style="list-style-type: none"> ・司書資格を有する職員の比率の充実 ・基幹業務以外の専門的分野の外部委託の検討 ・計画的な実施や効果の検証 ・職層別取り組み 	研修等による育成
4	ボランティア活動等の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア等の活動機会や場所の提供 	これまでになかった分野でのボランティア活動の可能性検討
5	運営の状況に関する点検及び評価	<ul style="list-style-type: none"> ・年度ごとの事業計画や自己評価の公表 	年次計画と評価による図書館運営の計画的実施と改善
6	ICTの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用による業務効率化 	ICタグなど、ICTを活用した運営の効率化
7	資料の適正管理	<ul style="list-style-type: none"> ・図書の亡失対策 ・貸出図書の汚損や水濡れ防止の働きかけ 	ICタグなどによる亡失対策 汚損等を防ぐための取り組み

2 とりまく状況や課題を踏まえた求められる取り組み

「I 現状」の「第1 読書活動や図書館をとりまく状況」で見てきたように、読書活動の振興のためには、市内の団体活動の支援や知的コミュニケーションのプラットフォーム作りなど、読書を支える活動の支援や、一人ひとりの読書経験を結びつけるような取り組みが求められています。

また、読書活動の振興のためには、読書環境の充実のための図書館の機能強化が必要です。一方で、地域を支える情報拠点としての図書館も求められており、課題の解決に役立つ図書館など、これまでの貸出中心の図書館からの変化が求められています。

多摩市では、「2050年の大人づくり」を掲げ、「持続発展教育・ESD」に重点的に取り組んでいます。課題を解決する力やコミュニケーション力を養い、環境・国際理解・エネルギー・平和・福祉・人権等、社会の様々な問題に向き合い、未来のために行動し続けることのできる取り組みを進めています。

今後に向けて、読書活動や新たな図書館作りを、多摩市らしく進めていくことが必要です。

